

霧の樹

わたしと接吻をかわしても

空は落ちてこなかった

わたしの肩にきみが手をのばしても

雨が地から上ってはこなかった

だから

わたしの熱いからだをさまよっても

白い霧のなかに枝をさしひろげた樹々は

踊りださないだろう

そのかわり

生命あることを祝福するためなら

冬のさなかに黒つぐみは唄い始めるかもしれない

きみの人生に幸あれと

霜の朝にりんごは白い花卉を開くかもしれない

わたしは今ここにいますよ

抱きしめるなら今しかないよ

明日のことは誰にもわからないから

真夏の雪が全てを凍らせるかもしれないから

唄うのは今だよ

永遠の今だよ

おいでよ！